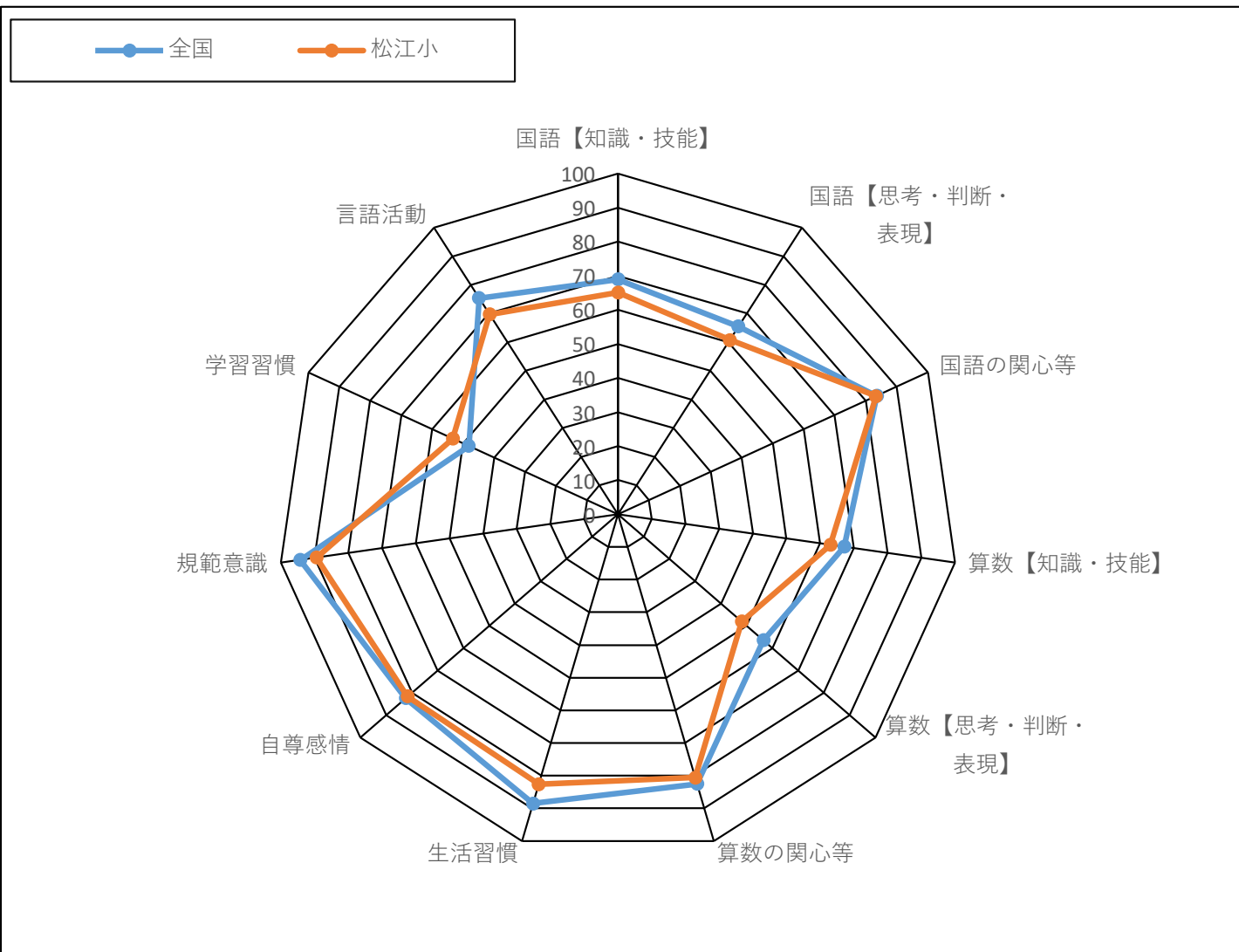


令和5年度全国学力・学習状況調査結果における課題分析表

●各領域における、全国平均正答率及び、全国の肯定的回答合計値を基準とした場合の本校の様子



【現状把握】

国語は、【知識・技能】【思考・判断・表現】共に全国平均を下回る結果となり、国語は特に、文章を読み、分かったことや登場人物の思いをまとめて「書く」ことに課題があることが分かった。

算数も、【知識・技能】【思考・判断・表現】共に全国平均と比べ低い結果となっている。式の意味を整理・分析して「説明する」問題の正答率が低いことが分かった。

しかし、どちらの教科も、【関心】は全国平均と同じ結果であり、学習の重要性について、肯定的に捉えていることが分かった。

【授業改善のポイント】

●国語・算数共に、自分の考えを表現することに課題があることが分かった。自分の考えを表現できるようにするために、どの学習でも以下の3点を行っていく。

- ①児童一人一人が学習の見通しをもち、自己の能力に応じた課題を設定できるように、単元導入の工夫を行う。
- ②自分なりの考えや意見を、ノートやワークシートに丁寧にまとめるなど、意図的に書く活動を取り入れる。
- ③評価する場面を適切に設定し、児童に伝えることで、学びの改善を促す。その情報を担任間で共有する。

●国語では、目的や意図に応じて内容を取捨選択し、伝えたいことを明確にすることを、授業で確認していく。

●算数では、既習事項を正確に使えるように、ガイダンスや授業の導入を工夫する。また、どのクラスでも課題解決を自力で行えるよう、少人数指導を生かし、児童相互の学び合いや、個別指導の充実を図る。

【チャートの特徴】

国語・算数の【関心】に関しては全国平均とほぼ同じ数値となった。【知識・技能】【思考・判断・表現】は、全国平均と比べ低い結果となった。

「児童質問紙」における児童の学習状況調査の結果から、【自尊感情】は全国平均と同じ数値となり、【学習習慣】は全国平均を上回った。一方、【言語活動】【規範意識】【生活習慣】に関しては、全国平均を下回る結果となった。

【家庭・地域への働きかけ】

保護者会、個人面談や健康生活カード、家庭学習キャンペーンでの機会を通して、早寝早起きなどの生活習慣や家庭学習時間の確保を含めた学習習慣の見直しを引き続き啓発していく。